昌齡が從軍行の一にも『青海長雲暗雪山、孤城遙望玉門關、黃砂百戰穿金甲、不破樓蘭終不還』と。明の代、其の邊防に薄弱なるに因り、特に嘉峪關を設けて支持せりと云ふ。蓋し現時玉門關の位置は頗る空漠なる處に在りて險要の地に非るを疑ふ。惟ふに當時は、其東南約四里半、今の赤金峽附近に在りしものならんか。

十五日午後三時五十分發玉門關の西北方約一里にして、鞏昌(コンチヤン)河を渡る。河幅約十米突、架するに土橋を以てするも、水淺く徒渉すべし。柳東號(リユウトンハオ)、柳西號(リユウシーハオ)の二河は、共に河幅約五百米突、水幅僅に十米突、亦徒渉すべし。斯して行程七里三道溝(サンタオコウ)に達す。三道溝は人家五十餘、兵卒十餘名を屯す。燃料は之を玉門關の南山に仰ぐ。地形は南山尙ほ西南に走り、其他は開濶平坦の沙漠を成し、絕えて草木の眼に入るもの有らず。唯〻玉門關、三道溝附近の河畔に柳、槐、栗の疎々たるを見しのみ。

十六日午後三時四十分發、疏勒(スル)河(幅九百米突水幅二百米突二條に分流す)を渡りて四道溝屯に、四道溝(幅三百米突)を渡りて五道溝屯に五道溝(幅二百米突水幅數米突)を渡りて六道溝屯に、六道溝(幅三百米突水幅數米突)を渡りて七道溝屯に、七道溝(河水幅共に東西に同じ)を渡りて、八道溝(幅三百米突水幅數米突)孔道(コンタオ)溝(河水幅共に東西に同じ)を渡りて、東溝屯に、東溝(幅二百米突水幅二米突)を渡りて東溝屯に、東溝(幅二百米突水幅數米突)を渡りて五道溝屯に五道溝(幅二百米突水幅數米突)を渡りて六道溝屯に、六道溝(幅三百米突水幅數米突)を渡りて七道溝屯に、七道溝(河水幅共に東西に同じ)を渡りて、行程約十三里、布隆吉(プルンチル)爾城に